

かずさの博物誌

クロハラアジサシ

～湖沼や湿地で
繁殖するアジサシ～

文・写真／成田篤彦

2014.10.20

秋の盤洲の海は春のようにうららかであった。

シギやチドリやカモの撮影を終えた時には夕暮れが迫っていた。

その時、小ぶりのカモメが目の前に飛んできて沖へUターンした。

だが、「あれ？」と思った。

雲で覆われ、日がささない上に、逆光でよく見えなかった。しかし、今まで見たこともない形と大きさと飛び方だと感じた。

「ひよっとして珍客？」とわくわくしてきた。

彼？は、四～五メートル上空の一点に止まり、降下した。そして、ドブンと海へ飛びこんだ。飛び上がり、左手の砂浜の植物の陰に消えた。

十五分ほど経って、彼？は、海に浮かぶヒドリガモとオナガガモの二〇〇～三〇〇の群れの上空を飛び回り、岸边にやって来た。そして、目



▲海に飛び込み小魚を捕えたクロハラアジサシ

＝2014年10月17日 木更津市

©成田篤彦

の前で、海面に飛び込み、飛び上がった。口に魚をくわえていた。

その時、運よく、雲間から日が洩れたため、彼？の漁の様子は白いハンカチがひらひらと舞っているように見えた。その後、彼？は沖の杭の上に止まった。

背の色が灰色、くちばしが黒、ごま塩模様のベレー帽をかぶっているように見えた。

帰宅して、彼？の写真をパソコンで見ながら、図鑑と照らし合わせた。コアジサシの冬羽？と思ったが、白い腹に黒っぽい斑があるのが気になった。そこで、野鳥観察のベテランの方に写真を見てもらった。すると「冬羽のクロハラアジサシ」だという。

コアジサシは十月には房総にはいない。それに、クロハラアジサシはたまに、この時期、上総の干潟や大きな堰などにやってくるそうだ。

このアジサシは主に陸の湖沼に棲んでいるという。それが上総の海にきたのは驚いた。

さすがに長い間、野鳥を観察している方は違う。

最初に見た時に珍客？と思った勘が当たったのはまんだまだ、未熟だと思った。それはさておき、彼らの



▲杭に止まったクロハラアジサシ＝2014年10月17日 木更津市

©成田篤彦

主食は昆虫だが、盤洲では、海面にくちばしを入れ、すくうように挟みこんで、小さなカニとボラの子を食べていた。

彼らが、いつ訪れても、たくさんの獲物が捕れる豊かな自然を上総にも残しておきたいものである。

memo

クロハラアジサシ

(黒腹鰯刺)

カモメ目アジサシ科

全長二十三～二十五cm。中型の水鳥。

ユーラシアやアフリカ、オーストラリアの温帯域で広く繁殖。冬季には亜熱帯から熱帯に渡る。

主に、水生植物が密生した内陸の湖沼で繁殖し、水生や陸生の昆虫を捕食する。

夏羽は上頭部が黒色。腹部は黒灰色。くちばしと脚は赤色。

日本には渡りの時期に立ち寄り、干潟からその後背湿地、内陸の湖沼に飛来する。羽数は少なく、春より秋に多く見られる。県内では東京湾の干潟や埋立地の湿地、印旛沼など内陸の湖沼に時々見られる。ヨシ原を好む。

参考文献

千葉県自然誌7巻2000年

©成田篤彦



▲干潟を訪れた、冬羽のクロハラアジサシ

＝2014年10月17日 木更津市

このアジサシは主に陸の湖沼に棲んでいるという。それが上総の海にきたのは驚いた。

さすがに長い間、野鳥を観察している方は違う。

最初に見た時に珍客？と思った勘が当たったのはまんだまだ、未熟だと思った。それはさておき、彼らの